

ロシア語母語話者による日本語の発話におけるコロケーション

高木 南欧子

キーワード：コロケーション，ロシア語母語話者，上級，OPI，日本語学習者会話データベース

1. はじめに

コロケーションは、ある言語内において習慣的に共起し、結合される語句である。名詞、形容詞、副詞、及び動詞からなることが多く、意味伝達の正確さに深く関わる。本シンポジウムでは、日露両言語におけるコロケーションに関する問題をめぐり、多義性からみた分析や、翻訳という観点からアプローチをした考察などが紹介された。議論をとおし、外国語学習におけるコロケーションの習得の難しさが改めて浮き彫りにされたと同時に、言語のもつ深さや面白さを発見する場ともなり、非常に有意義な機会となった。

コロケーションの結合の規則は、言語によって異なることが多く、外国語学習を困難にさせる要因の一つともなっており、日本語教育においても、誤用分析などの知見の積み重ねから広く知られている問題である。しかしながら、ロシア語母語話者の日本語学習において、語の結合の理解過程の解明や、習得に影響する母語干渉の分析、それらの教材開発への反映という点から見ると、十分であるとは言えないのが実態である。

2. 先行研究

イタリア人の日本語学習者を対象としたコロケーション理解の調査研究に前川(2015)がある。この調査研究によると、文字通りの意味で使われるコロケーション（「物音で目が覚めた」）よりも、慣用的な表現（「この町は夜遅くまで足があるので、便利でいい」）は理解しにくく、正答率が非常に低いこと、学習者は動詞より名詞に関する知識が深く、名詞の選択に関する問題の方が正答率が高いこと、類似した表現があると正答率が高くなることがある、ということが確認されている。

このような慣用的な表現についての意味の理解や、名詞または動詞に対する知識の深さについて、ロシア語母語話者の日本語学習では、どのようなことが言えるだろうか。

3. 「名詞+ヲ+動詞」における誤用

試みとして、「名詞+ヲ+動詞」に対象を絞り、この形式が「日本語学習者会話データベース」(国立国語研究所)¹の1名のロシア語母語話者による自然発話(上級-中)²において、どのように用いられたかを見ることとした。抽出においては、「名詞+ヲ+動詞」の持つ意味が、慣用的な表現になっているか否かの区別はせず、形態的に「名詞+ヲ+動詞」となっている語句をすべて対象とした。サ変動詞の「名詞+スル」は、広い意味の語結合と考え抽出対象に含めた³。また、「名詞+ガ+デキル」は、「名詞+ヲ+スル」に構造的に似ているため、参考のために抽出対象とした³。誤用か否かの判断は、当該文脈において意味理解の障害になるかどうかを基準とした。

これらの出現数を示したものが表1である。

表1 「名詞+ヲ+動詞」、「名詞+ヲ+スル」、「名詞+ヲ+デキル」の出現数

名詞+ヲ+動詞			名詞+ヲ+スル			名詞+ガ+デキル		
延べ	異なり	誤用	延べ	異なり	誤用	延べ	異なり	誤用
40	37	10	27	24	6	7	6	1

¹ 現在のところ、ロシア語を母語とする日本語学習者の発話データは、「日本語学習者会話データベース」(<https://db3.ninjal.ac.jp/kaiwa/>)のほか、『多言語母語の日本語学習者横断コーパス(International Corpus of Japanese as a Second Language)』(I-JAS) (国立国語研究所 <http://lsaj.ninjal.ac.jp/?cat=3>)がある。

² OPIはインタビュー形式をとった自然発話であり、発話者の運用語彙の観察が可能であること、「上級-中」レベルであれば、ある程度のコロケーションの観察ができるであろうと期待されたため、当該データを分析対象とすることとした。

³ 高木(2014)では、韓国語母語話者のOPIの発話データから、母語干渉によると思われる「漢語名詞+スル」の誤用が観察されたため、本報告においても「漢語名詞+スル」を対象に含めた。「スル」に置き換えられる「ヤル」は、「スル」とほぼ同じであると考え、抽出の対象とした。

「名詞+ガ+デキル」の誤用は、「スピードができる」という 1 例のみであり、本来は「早くできる」を意図するものであった。正しく用いられた 6 例は、「(情報を) 交換できる」「進化できる」「(人と) 相談できる」「お金もできる」などであったが、これらはコロケーションというより、一語の動詞であると言えよう。しかし、「お金もできる」の「できる」は、「道ができる」のように、以前はなかったものが何かの結果、形になることを意味し、慣用的な表現であると言える。日本語教育においては、初級の早い段階で扱われることが多い。

表 2 に「名詞+ヲ+動詞」における誤用の例を示す。

表 2 「名詞+ヲ+動詞」の誤用 「/」は複数の可能性を示す

	ロシア語母語話者の発話	意図したと思われる文章（文脈からの判断）
1	1 日を過ぎたら	1 日が過ぎたら
2	稼いでるお金、を考えてる	お金を稼ぐことばかりを考えている
3	ずるいみちとかつくって	ずるい方法を見つけて
4	だれか考えてる、もの、自分の頭の中に入れて、考え直して	誰かが考えていることを自分の頭で考え直して
5	1 番さみしい時期を待ってた	1 番さみしい時期が来るのを待っていた
6	お金をもらって	お金をためて/作って
7	禁煙になったの、法律を、認めて	禁煙にする法律ができて
8	コミュニティーを使うのは	コミュニティーを利用/に参加するのは
9	コミュニティーを使ったら	コミュニティーを利用/に参加したら
10	つゆを待ってた	梅雨になるの/に入るかと思っていた

1 と 2 は文法的な要因、3 と 4 は言語による慣用的な表現の違いに由来する誤用と考えられよう。5～10 については、「時期」「お金」「法律」「コミュニティー」「梅雨」のように、使用されている名詞の意味の多義性、曖昧性が低く、多義性も低いと考えられる。動詞はどうであろうか。

表 2 をデータの発話者とは別のロシア語母語話者である日本語学習者に見てもらったところ、4 の「頭の中に入れて考え直す」、5 と 10 の「何かの時期を待つ」、はロシア語としては自然な表現であるとの指摘を受けた。「待つ」について詳しく確認したところ、この文

脈で発話者が言いたいことは、その時期が来るだろうと思う、という意味であろうとのことであった。英語の *expect* も「待つ」と訳されることがあるが、このロシア語母語話者の発話においても、英語の *expect* に似ている意味を持つ動詞が元になっていると推測される。日本語の「待つ」は英語で言うと *wait for* の意味であり、具体的な時の経過や変化を表す語句と結合する必要がある。このような語結合に必要な情報は、習得の際に留意事項とする必要があるだろう。

7の「法律を認めて」は、文脈からすると、本来は「法律ができて」になるところである。表1で見た「できる」と同じ用法であるが、ここでは「できる」を使うことができていない。「法律」という語彙そのものは、JLPTではN4レベル⁴の語彙であり、難易度が非常に高いものではないが、法律の制定というやや専門性の高い内容であることが、誤用の原因になったのではないかと推察される。

また、難易度が高くない、という点では、3「みちとかつくって」で使用されている「道」「作る」も同様であり、JLPTではN5レベルの語彙である。しかしながら、3における誤用の原因は、語が持つ多義性のずれによるものと思われる。日露両言語において、「道」には、物理的な「道」を示す以外に、方法、やり方を意味する用法がある。しかし、日本語においては「救う道がない」「解決の道を探る」のように、「道」は所与のものとして扱う動詞と結合する。初期の段階で学習する語の多義性をいつ、どのように学習していくかは課題である。

4. まとめ

今回、4における分析から、一つの固まりとなっている語彙に関しては誤用がほとんど見られないこと、語結合のための知識が必要なコロケーションに関しては、文法的な問題に由来する誤用、慣用的な表現の言語による違いに由来する誤用、動詞の意味範疇の違いによる母語干渉による誤用が主な原因となっていることが窺えた。動詞の意味範疇による違いによって生じる誤用は、名詞のそれより数が多いということは、前川(2015)における「学習者は動詞より名詞に関する知識が深」という指摘とほぼ同様の結果であると言える。

⁴ 日本語読解学習支援システム「リーディング チュウ太」(<http://language.tiu.ac.jp/>)によるレベル判定。本稿では、2016年11月5日に更新されたバージョンを使用した。

コロケーションの誤用を減らすには、多くの用例に接し、効率よく用法を学習していくことが望ましい。この学習を可能とするためには、さらに多くのデータ収集と分析を行い、教材開発へ反映させていく必要がある。今後の課題と言えよう。

参照文献

高木南欧子(2014)「韓国人留学生の自然発話に見られる誤用」『神奈川大学言語研究』vol.36
pp. 141 - 158

前川喜久雄(2015)「日本語教育とコロケーション：連語の形で用法を学ぶ重要性」『第7回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』pp.73-78 国立国語研究所

使用データ

データ番号 92 「日本語学習者会話データベース」国立国語研究所

<https://db3.ninjal.ac.jp/kaiwa/>

ロシア語母語話者による日本語の発話におけるコロケーション

高木 南欧子

コロケーションの誤用の要因を探るため、1名のロシア語母語話者の上級・中と判定された OPI の書き起こしデータから、コロケーションの誤用を見た。誤用のうち、文法的要因と思われるもの、慣用的表現の違いに由来すると思われるものがそれぞれ2割であり、残りの6割は動詞の意味範疇の違いによるものと推測されるものであった。今後、教材開発につなげるため、さらなるデータの収集と分析が必要である。